



日ごとに秋が深まってきました。一日の気温差や、季節の変わり目で体調を崩しがちですが、何を食べてもおいしい「実りの秋」です。地元名産の多古米とお肉や魚、野菜・果物、バランスの良い食生活を心がけ、十分な睡眠と運動で、感染症に負けない体づくりをめざしていきましょう。私達スタッフは、「ご利用のお子さんが、少しでも早くおひさまのもとで元気に過ごせますように…」という願いを込めて保育をしています。

午前と午後、回診にいらっしゃる小児科の先生達は、病状が回復して元気を取り戻していくお子さんに「もう大丈夫だね！ 明日からは保育園に行けるよ。」と笑顔で声かけして下さいます。私達もお子さんのお迎えの時は、「〇〇ちゃん、元気でね！」とお見送りします。

「今日の元気が続きますように…」と祈りながら・・・

もしも急な発熱や感染症になってしまって、集団生活はちょっと無理かな…と感じたら、病院受診の際、小児科受付にお声かけください。担当看護師が、病児保育所の利用について詳しくお伝えします。

また、スポーツや活動中にお子さんがケガをした時、病院を受診する前に《家庭でできる応急手当》について、看護師さんからのアドバイスを裏面でお知らせします。こどものケガは慌てずに、早期対処が肝心です。



【7～10月の利用状況】

- 気管支炎・・・5名
- 急性上気道炎・・・4名
- 急性咽頭炎・・・4名
- 急性扁桃腺炎・・・4名
- 化膿性耳下腺炎・・・4名
- 頭部軽度外傷・・・1名



【利用登録手続きについて】

利用の希望日に、スムーズに保育ができるように、**事前登録**をしておきましょう。一度の登録で小学6年生まで有効です。登録…多古町役場子育て支援課こども係



家庭でできる応急手当

子育てをしていると、こどものケガは日常茶飯事。病院に行くほどでもなさそうだけど、子どもは泣いている「どうしよう！」 そんな時は慌てず、まずは深呼吸！ 落ち着いて傷を見てあげることが大切です。お父さんお母さんが不安になると、こどもは「とても悪いことをしちゃったのかな」と罪悪感を持ちます。

まずは、「大丈夫だよ、心配ないよ！」と声をかけてあげましょう。

そして、すり傷は『流水で洗って汚れを落とす』『傷はなるべく乾かさないようにする』が基本的な処置です。

ポイント1 よく洗う！

まず、傷口についている土や砂など流水でよく洗い落とします。
(切り傷で出血している時も同じです)

汚れを落とすという処置でどれだけ菌を減らせるかにより、きれいに傷が治るかが決まります。

ポイント2 傷を乾かさない！

しばらく経つと、傷口からサラサラした液体（浸出液）がにじみ出てくる場合があります。この浸出液には傷を治すために必要な成分が含まれています。消毒液を使って消毒してしまうとその機能が十分発揮できません。消毒はせず、よく洗ってから、家庭用創傷パッド（傷パッド）を貼って傷口が乾かないようにしましょう。傷全体を覆えるサイズがよいでしょう。あとは1日1回、入浴時にシャワーで静かに洗い流し、乾いたタオルなどで押さえるように拭いてから貼り替えます。

浸出液が多く、傷パッドがはがれてしまうときは、1日何回貼り替えてもよいです。くり返しますが、消毒する必要はありません。下から新しい皮膚が盛り上がり傷を治していきます。これを【湿潤療法】といいます。

病院への受診のめやす

- ① 傷口が深く、開いている
- ② 傷口に砂や泥が入り込み水道水で洗い流しても残っている
- ③ 傷口をガーゼで押さえても出血が止まらない
- ④ 数日経って痛みが強くなる、赤み、腫れが出てきた



外科の先生が、診察の際に患者さんにお話して下さる内容を、いつもそばについて対応している看護師さんが丁寧にまとめてくれました。みなさん参考にしてください。